

福田寺だよ

発行

55

神奈川県小田原市飯田岡二五七
36-27住職 橋本尚信
田土守

「東寺創建一千一百年慶讃大法会」

平成七年十一月八日～二十一日

真言宗總本山教王護国寺（東寺）は、来る平成七年に創建一千二百年を迎えます。これに際し、東寺並びに東寺を本山とする東寺真言宗では数年前より慶讃大法会の計画を進めています。いよいよ二年後に控え、準備にも熱が入ってまいりました。

東寺は、延暦十三年（七九四）桓武天皇が京都に平安京の造営をはじめ後、間もなく創建されました。それから約三十年後の弘仁十四年（八二三）嵯峨天皇が空海（弘法大師）

）にゆだねられた寺です。千二百年の昔、空海がこの東寺を真言密教の根本道場として活躍してから今日に至るまで、弘法大師信仰は様々な形で庶民に受け継がれ、教いと成っていました。高野山の入定がそうです。それらの根本がこの東寺であり、空海が何を考え何を成そうとしたのかも、この東寺に秘められているように思います。このように真言密教の末徒にとり大切な東寺が、今創建千二百年を

迎えようとしているのです。

大法要の期間は、平成七年十一月八日より二十一日までの二週間で、主な行事は、桓武天皇御国忌、嵯峨天皇御国忌、弘法大師御影供、各堂宇完成報告等の法要、歴史的建造物である灌頂院での仏と縁を結ぶ結縁灌頂、いけばな展、茶会、陶芸展、各種イベント等、盛りだくさんな催し物が予定されています。又、この

期間に末寺寺院は本山参拝の団参計画をすすめることと思います。不肖私も内局の一人として、勧募や実行委員会やらで大師の恩徳に報いるべく、働かさせて頂いております。
二年後の大法会には、檀信徒の皆様そろって本山参拝の団参に参加されますよう、今から御案内申し上げます。

私の宗教、あなたの宗教

古い・超能力・靈ブームはいつまで続く

相変わらずの宗教ブームが続いている。新宿あたりの「占いの館」に若い女の子が殺到している様子がテレビに映る。この占いを宗教の範疇に入れるとどうかは議論があるところだが、それはともかく宗教らしきものに引かれていることは確かである。有名タレントが、夢遊病者の如く新宗教に翻弄されている姿も痛々しい。ワイドショーには、法衣を着た僧侶までが、あたかも靈を除くがごとく演技している様が映し出されるが、これは視聴率アップに貢献しているだけのことのようである。

その人たちが、最初の頃は謙虚であつたものが、だんだん有名になると、宝石や豪華な衣装を身にまとうようになるのも不思議である。マスコミが宗教団の修行場にまで、テレビカメラを設置して放映するのも妙なものである。まだまだ数えあげればキリがないが、バカバカしいと思つていてもマスコミがとりあげるのは見る人が大勢いるからである。どうやら日本人の宗教感覚を、一度整理する必要があるようだ。

たりすると、何かのタタリではないかと心配する。そこに宗教に頼ろうとする依存心がめばえてくる。この時多くの人が陥りやすいのが自分にふりかかった災難の原因を見極めようとして、ただ安易に靈の障りにしたり、自分ではどうしようもない力のせいにしてしまう事である。その方がずっと楽だし、諦めもつくのである。こう言うと私は靈魂を否定しているように思われるかもしれないが、決してそうではない。確かに靈魂は存在するし、我々の力ではどうしようもない大きな力（神仏の働き）が存在することも確かである。超能力もあるし、様々な靈的現象も知っている。ただ、それだけを頼りに、盲目的に振り回されるのは良くないと言っているのです。

では、宗教との関わりをどのように理解したらよいのでしょうか。

それは、自分自身が神仏と一体になる境地を体得する以外にはないのではないか。神仏を対象として捉えるのでは無く、自分も神仏も隔ての無いものであるということを理解することではないでしょうか。

そういう我即仏の境地にある時、全てのものへの感謝と他人への慈悲が生ずるような気がいたします。

話を元に戻しますが、宗教は決して集団で学ぶものではなく、宗教団体に属さなければならぬものでもないと思ひます。否、むしろ集団による信仰は本来の宗教心から掛け離れるのではないか。宗教はそれぞれの心の中にあるものであつて一人一人のものである。あなたの宗教はそういうものであつて欲しい。

福田寺裏の土地返還される

十三年前の和解により今年八月に

* * * * *

本堂の後ろを流れている川を隔てて広がる福田寺の裏の土地は、三十年前いろいろな事情から、印刷会社に貸されたが、寺の敷地としてどうしても必要であることから昭和五十五年に相手方の会社と交渉し昭和六十八年（平成五年）に返還

してもらう和解が成立していましたこの和解に従つて、今年八月に原状に復して返還がなされました。

一部は墓地用地とする予定ですが、申請にあたつて皆様の協力をあおぐことも有ろうかと存じますので、その時はよろしくお願ひ致します。

参加して

みませんか

お経を読む会

平成三年九月から始まつたお経を読む会は、平成五年十一月で二十二回目を迎えました。

皆さん楽しく参加していただいている。毎回内容が変わりますので途中から入つても差し支えありません。どうぞ思い切って参加してみませんか。

毎月十五日

夜七時半より一時間
テキスト

東寺真言宗在家勤行法則
(寺にあります。)

参加費用

一人百円
次回
一月十五日

新年厄除け薬師護摩供養

申し込み受付中

▼ 一月八日午後一時より修行

記

除夜の鐘とともに、本堂の扉を開けておきます。

期日···一月八日、午後一時より

祈禱料···三千円

祈禱内容···厄難消除（厄よけ）

身体健全、病魔退散、学業成就、

家内安全、交通安全、安産祈願、

業運繁榮、所願成就、他

申し込み···一月七日まで、電話可

▲ ▲ ▲ ▲ ▲

午前0時より一時まで、住職により新年の御祈禱が修法されますので、ご自由に初詣下さい。尚、年賀等一切不要ですので念の為。

暮れの参り

古い護摩札やお守りなどは、暮れのお参りの時に、本堂入り口に用意された納め場所に納めて下さい。特に大きなものや、燃えないものは、寺の者に連絡してください。

真言密教には、病気を主に他のあらゆる苦しみから逃れる手段として薬師如来を奉り、一切の苦難の原因を取り除く護摩供養が、千数百年の間連綿と受け継がれています。

人間の心底からの願い、悩み、苦しみを、真正面から受け止めてください。自分が薬師如来さまであります。現実を肯定する密教について、自分をさらけだしておすぐりできる仏様です。

福田寺の本尊は、この薬師如来今まで、古来よりその靈験は近在に知られております。新年恒例の薬師護摩供養会を下記の要領で修行いたしますので、護摩ご希望の方はお申し込みください。檀家以外の方でも勿論結構です。

	男性		
女性	前厄	本厄	後厄
前厄	昭和二十九年生まれ		
本厄		昭和二十八年生まれ	
後厄		昭和二十七年生まれ	

昭和三十八年生まれ
昭和三十七年生まれ
昭和三十六年生まれ